

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ 博物館

第12回

我孫子市鳥の博物館 (我孫子市)



ケイウギンコウ・ケイウインコ

インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

まぼろしの鳥に会える 日本初の鳥類専門博物館

我孫子市鳥の博物館は、日本初の鳥類専門の博物館です。「鳥博」の名でも親しまれ、自然と鳥たちの姿や関係性をテーマにした展示が行われていて、鳥好きはもちろん、子どもたちにも大変人気のある博物館です。

博物館の目前に広がる手賀沼は、多くの水鳥が飛来する自然の湖沼ですが、1970年代には水質が全国ワースト1となり問題になりました。我孫子市民の環境意識の向上を目指すため、鳥類の研究や自然保護活動で実績のある山階鳥類研究所の我孫子市への誘致をきっかけに、さまざまなご協力により博物館の設置に至りました。

来館者に一番人気があるのは、やはり「世界の鳥コーナー」に展示されている約300種類の世界の鳥の剥製標本です。身近な鳥はもちろんですが、今では現地に行ってもなかなか見ることができなくなった珍しい鳥の標本も多く、この鳥の姿を見るだけでも貴重な体験だと思います。

また、手賀沼の四季を再現した大きなジオラマや、始祖鳥の化石の復元展示、世界一背の高い鳥と言われるモアの骨格レプリカ、過去に存在していたという巨大な鳥、ディアトリマの復元模型なども、ぜひ目の前でその迫力を感じてほしいですね。

さらに、鳥のユニークな姿だけではなく、当館では「鳥とは何か」という視点から、鳥の起源と進化、鳥の飛翔などについての展示も行っています。

常設展示だけでなく、時期によってさまざまな企画展も開催しています。実は私が初めて企画した「とりホネ展」も先日行われました。これには鳥好きだけではなく、恐竜ファンの方にもご来場いただき、大きな反響がありました。



我孫子市鳥の博物館
学芸員 脇水 徳之さん



我孫子市鳥の博物館とは？

「人と鳥の共存をめざして」をテーマに、日本で唯一の鳥類専門の博物館として、1990年に開館しました。多くの鳥が飛来し、暮らしている手賀沼のほとりにあります。

館内には、手賀沼の四季を再現したジオラマや、鳥の起源や進化、世界の鳥を一望できる展示があり、鳥の多様性や生態を学ぶことができます。また、鳥たちが飛び仕組みや体の構造をわかりやすく解説するコーナーもあり、大人から子どもまで楽しめる内容になっています。

ジャイアントモアの骨格レプリカ

モアは、かつてニュージーランドに生息し、絶滅してしまった鳥類史上最も背の高い鳥です。大きなもので3m以上あったとされています。



圧巻の約300種類の剥製 そのユニークな姿に興味津々

我孫子市鳥の博物館では、さまざまな鳥との出会いが待っています。まず、エントランスでは世界一背の高い鳥と言われるモアの模型がお出迎え。展示室がある2階に登る階段には、画家で鳥類の研究者、ジョン・ジェームズ・オードデュボンが描いた鳥の美しいイラストが展示されています。

そして2階の常設展示コーナーへ。入ると「手賀沼の自然と鳥たち」を紹介するコーナー。手賀沼に生息する生き物の剥製標本が並び、水中も観察することができる大型のジオラマ。来場者のほとんどが興味深く水中を覗き込んでいます。

続いて順路は3階へ。3階展示室には、エントランスで展示されていたモアよりさらに大きなジャイアントモアの骨格レプリカや、過去に生息していたとされる巨大鳥ディアトリマの復元模型が展示されており、その大きさは、恐竜の世界の迫力です。そして大人気「世界の鳥」コーナー。身近な鳥から、もう現地でも見ることが難しい貴重な鳥まで約300種類の鳥の剥製が並び風景はまさに圧巻です。



▲ジオラマ「冬の手賀沼」。とても精巧に作られています。横からは水中の様子も見ることができます。



▲館内には、骨格標本や復元骨格模型も多く展示されていて、鳥類の体のつくりをくわしく観察することができます。



▲始祖鳥の復元模型。始祖鳥は約1億5千万年前に生息していたといわれる最も古い鳥の仲間です。



▲ドーダーの復元模型。インド洋モーリシャス島に生息していた絶滅した鳥です。



▲キーウィの剥製。ニュージーランドに生息している飛べない鳥。絶滅危惧種。



▲3階展示室「世界の鳥」コーナー。バリエーション豊かな世界の鳥の実物剥製を一堂に展示しています。

◀ハシビロコウの剥製もちゃんとあります。とても人気があります。

すごい!このホンモノを見逃すな!

トキの剥製



3階展示室、「人と鳥の共存」コーナーに1羽だけ特別に展示されている鳥がいます。学名「ニッポニア・ニッポン」。特別天然記念物で国際保護鳥である、トキの剥製が展示されています。

日本にもともと生息していたトキは、生息環境の破壊や狩猟等によって、残念ながら2003年に最後の1羽が亡くなり、絶滅してしまいました。

現在は、中国から贈られたトキが多くの方の努力によって数を増やしつつありますが、野生では見る事ができなくなった日本のトキ。展示しているトキの剥製は日本産のトキで、私たちに人と鳥の共存の大切さ

を語りかけています。このコーナーでは、人と鳥が共存していくためにはどうするべきかを考えさせられます。

ところでこの学名「ニッポニア・ニッポン」、これだけを目にすると、日本の国鳥と勘違いしてしまいそうですが、日本の国鳥はキジ。ではなぜトキにこんな立派な学名が付けられたのでしょうか。

これは江戸時代の末期、長崎のオランダ商館に勤めていた医師シーボルトがトキの標本をオランダへ送ったことがきっかけです。その後、いろいろな研究者によって「*Nipponia nippon*」として分類されたのが学名となりました。

イベントに行ってみよう!

このようなイベントもやっています

鳥の博物館では毎月、鳥や手賀沼の自然をテーマにセミナーや観察会が開催され、多くの方が参加されています。



【鳥のサイエンストーク】

毎月1回、鳥の博物館の学芸員の方や山階鳥類研究所の연구원の方を始めとした専門家の先生が講師となって鳥に関するお話をします。毎回、多くの鳥好きの方が集まります。



【てがたん(手賀沼の自然観察会)】

毎月1回、博物館前に広がる手賀沼の自然の中で、鳥とそれに関わり合う生き物たちを観察しています。毎月テーマを決めて、季節の自然の見どころを紹介しています。

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第12回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、博物館の入口や、見事な骨格レプリカが展示されていた世界一背の高い鳥の名前は何でしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① モア
- ② モナ
- ③ モネ

取材協力・撮影協力・写真提供／我孫子市鳥の博物館

プラス  で、未来をともし。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



正解は→① モア

2025.12
(次回発行予定/
2026年1月20日)